

# ZEN RAKU KUREN 全酪連会報

# 4

2026 APR No.727



若手後継者の本音／  
うらかふあーむ株式会社  
渡邊颯介さん

農林水産省から  
長命連産性の向上につながる  
飼養管理を目指した  
チェックポイントを活用しましょう

全酪アカデミー修了生／  
4組目の酪農家誕生

水際対策で  
家畜伝染病予防を!6

日本酪農見て歩紀／  
阿部牧場(新潟県新発田市)

酪農トピックス／  
東日本大震災から15年  
消費者の部屋(農林水産省)にて復興牧場  
「シャインコーストファーム」ミニ講演  
(総務部)ほか

新入職員入会式

全酪新報ダイジェスト版

第53回 全国酪農青年女性  
酪農発表大会開催のお知らせ

作品募集のお知らせ

酪政連活動報告

## 全酪連 定期刊行物のご案内

バックナンバーはQRコードから閲覧いただけます。



全酪連会報

⇒ <https://www.zenrakuren.or.jp/kaiho/>

COWBELL

⇒ <https://www.zenrakuren.or.jp/cowbell/>



全国酪農業協同組合連合会

## はじめに

若手後継者が熱意を持って意義を感じながら事業を継承するには、何か惹き付けるものが仕事になくはなりません。「儲かる」「社会的意義がある」「楽しい」……いろいろなあるでしょう。今回は牧場経営者である父親の姿を通して、それが実感できる場面を体験し、後継者となった「うららかふぁーむ株式会社」の渡邊颯介さんを紹介します。取材時は途中からお父様の渡邊宏さんも加わって話が盛り上がりました。

## うららかふぁーむの特色

現在の牧場主である渡邊宏さんは愛知県内の他地域で酪農を営んでいましたが、令和元年7月



▲ 事務所にて  
渡邊颯介さん(右)と父 宏さん(左)

今回は、愛知県豊橋市うららかふぁーむ株式会社の後継者 渡邊颯介さんにお話を伺いました。

から愛知県豊橋市に移ってきて新たに「うららかふぁーむ株式会社」として酪農場の経営に乗り出しました。経営の特徴としては、複数個所の廃業後の施設をリノベーションして活用し、初期投資を大幅に抑えていることです。付近の市町村5カ所に施設を構え、事業を展開しています。飼料にはおから、豆乳粕、パイナップル粕、糖化粕など様々な食品残渣(エコフィード)を有効利用してコストを抑えながら、それでいて3回/日搾乳で平均乳量39kg/頭/日を達成しています。夏でも37kgほどを維持できているとのこと。高乳量の背景には牛が快適に過ごせる環境づくりがあるようです。畜舎内で堆肥化発酵させるコンポストバーンが導入されていますが、朝晩トラクターで牛床を攪拌して乾いた状態を維持しているとのこと。訪問した時には、朝の給餌後4時間以上が経過していたにもかかわらず、ほとんどの牛がゆったりと寝ていました。3回搾乳ですの牛の1日の過ごし方(カウタイムバジエツ



▲ コンポストバーンの牛床  
ほとんどの牛がゆったりと寝ています



▲ 牛舎施設

ト)にも工夫をこらしているとのこと。

農場経営の他に啓蒙活動にも取り組んでおられ、小学校、幼稚園、保育園を対象にした出前授業を行っています。テーマは酪農を通じた「命の尊さと食の大切さ」です。講師は宏さんが自ら務め、アシスタントは颯介さんです。2時間程度の内容で、紙芝居を駆使して途中にクイズを取り入れたりしながら飽きさせないようにしています。

## 後継者になるまで

颯介さんは農業高校で畜産を専攻し、卒業

# 若手後継者の

# 本音

## Vol.80

〔経営概況〕

所 属 愛知県酪農農業協同組合(鈴木康弘代表理事組合長)  
家族構成 ご両親、颯介さん、妹さん  
稼働人員 渡邊颯介さん、宏さん(父)、従業員8名+アルバイト4名でシフト制  
飼養頭数 搾乳牛100頭、乾乳20頭、育成50頭  
その他に和牛の繁殖と肥育



▲ 子牛は隙間風を防ぎながら換気にも気を配っています  
電熱で保温もばっちり。子牛が写っていませんが(ゴメンなさい)、ジャケットを着ています



▲ 乾草倉庫



▲ うららかふぁーむ命の授業  
酪農を通して、命の尊さと食の大切さを1人でも多くの子供達に伝えて行きます

## 持続発展する酪農経営 ～地域で連携して全国に発信～

後は農業大学校に進学されて酪農を専攻しました。

周囲に農家の子弟は少なかったそうです。学校生活では、陸上競技とサッカーに打ち込まれました。農業大学校卒業後は削蹄会社の就職を経て他農場で半年間の研修を行い、うららかふぁーむで働き始めて2年になります。誰から言われたでもなく、自分の意志で酪農の道に進むことを決められたそうです。尊敬する父の背中を見て自然とその道に惹かれたのだと思います。

### 何がつらい？

最初に、何がつらいか聞いてみました。

● 朝・起床は午前3時で牛舎作業を午前5時から始めます。この生活リズムに慣れるまで、2〜3か月もかかりました。

● 牛の状態チェック・健康に問題がある牛の発見に不安があるとのこと。取材者の勝手な憶測ですが、つらいと感じるのは父宏さんの厳しくも暖かい指導がセットになっているからでしょうか。それでも、自分の観察が活用できた時にはやりがいを感じるとのこと。

### どんな時にやりがいをを感じる？

まず、出てきたのは「酪農作業が好き」という言葉でした。酪農作業をしている時にやりがいを感ずるということ。シンプルな言葉ですが、生涯の中で長く携わっていくという意味では重要で重い内容だと思います。最近では、少しずつですが繁殖作業も任せられるようになり、自分が種付けした牛に妊娠が確認された時は大きなやりがいを感ずったとのこと。

こうした成功体験の積み重ねが成長のきっかけになるのでしょうか。

牛に関わる知識を吸収することにもやりがいを感ずっているとのこと。酪農作業が好き↓牛のことをもっと知りたいと繋がっていくのでしょうか。胎児が正常位でない分娩時の対処や処置なども父宏さんから教授されたそうです。父親の指導は厳しいけれども、将来のことを考えるとありがたいと感じるのではないでしょうか。

将来に描くイメージ

後継者として、やがては酪農経営者になっていくわけですが、将来のイメージ、挑戦してみたいことなどについて伺ってみました。

●酪農場を自分で運営、「コントロールをしたい農場経営者になること」で自分の可能性を試したいという思いがあります。

●酪農の枠にとらわれずに、いろいろなことに挑戦したい

●生産加工販売まで網羅した6次産業化  
酪農場から出てくる生産物は大まかに牛乳、牛肉、堆肥です。自家産牛乳を扱うカフェ経営をしてみたいとのこと。その他に和牛肥育にも乗り出しているため牛肉販売も視野に入っているかもしれません。

●肥育事業の規模拡大

堆肥は付近の畑作農家に引き取っても



▲ 颯介さん、牛舎の前で

らっているようです。

酪農の枠にとらわれずに、肥育事業も充実させていきたいという思いがあります。

●地域で連携して酪農の魅力を全国へ発信  
現在すでに取り組んでいる児童を対象にした啓蒙活動をさらに発展させていきます。また、地域の連携では同世代の農家との横のつながりを作って広めていきたいという思いがあります。

酪農を継承するにあたって不安なこと、課題

農場について廃業跡の施設をリノベーションして活用しているので、効率的な作業が難しい施設がら力所に分散しているのに加えて、現在の作業形態は元の農場とは違うので効率的な移動ができるような作業線にはならず、その分手間がかかってしまいます。従業員を多く雇ってカバーしていますが、できるだけ効率的に作業がこなせるように環境を整えたいと考えています。

また、連携して地域を発展させていきたいと考えていますが、同世代の仲間が少ないことは不安に感じています。

これに対して、宏さんは「従業員が独立して酪農を始めることがあれば、支援して仲間を増やしていきたい。そして地域を盛り上げていきたい。」と話していました。

さらに宏さんは「牛のことだけではダメだ!」と続けました。

酪農は365日が仕事で休みが無いと言われる

ることもあります。それでも事業として考えると、運営を持続していくためには牛に関わる知識を積み重ねていくだけでは不十分で、キャッシュフローやその他の数字にも通じている必要があります。また、新しいテクノロジーやトレンドを取り入れるなど、積極的な経営感覚も必要だと思えます。後継者への戒めとも取れるような、酪農経営者としての重い言葉でした。

父 宏さんの指導を受けながら、酪農事業後継者として颯介さんが大きく成長していくことを期待したいと思います。

全国の若手後継者の皆さんへの一言!



自分もまだまだ勉強中ですが、毎日牛と向き合っていると色々学ぶことがあります。失敗もあるけど、それも含めて楽しい日々です。みんなで少しずつ経験を積んで、酪農を楽しめたらいいですね。

●うらからファームのHPはこちらから

HP▶<https://uraka-farm.studio.site/>



# 長命連産性の向上につながる飼養管理を目指した チエックポイントを活用しましょう

●どうして今、長命連産なのか

令和に入ってから、コロナ禍による脱脂粉乳需要低迷に伴う生乳需給の緩和、ウクライナや中東の情勢、円安による資材価格の高騰など、我が国の酪農をめぐる情勢は依然厳しい状況が続いている。一方、乳用牛1頭当たりの乳量は年々増加傾向で推移しており、これまでの酪農家をはじめとした関係者による改良の成果であると言える。このような中、酪農経営の安定を図るためには、近年課題となっている繁殖性の低下な

い状況が続いている。一方、乳用牛1頭当たりの乳量は年々増加傾向で推移しており、これまでの酪農家をはじめとした関係者による改良の成果であると言える。このような中、酪農経営の安定を図るためには、近年課題となっている繁殖性の低下な

「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」においても、「乳

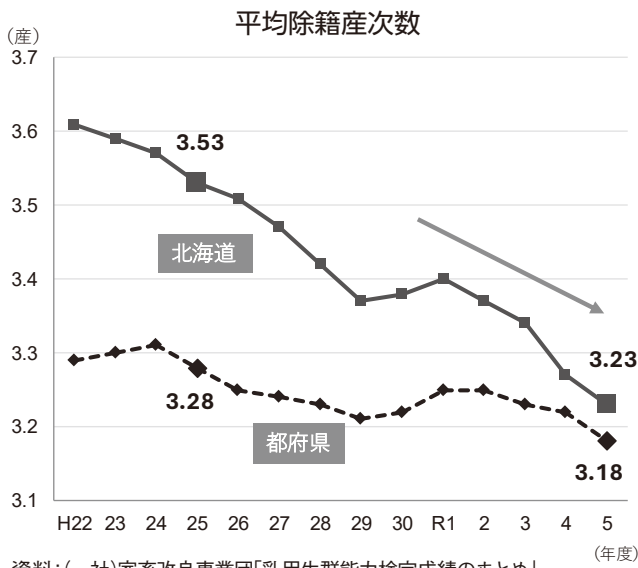
用牛の長命連産性の向上」を位置づけ、乳用牛群を長命連産性の能力の高いものに転換していくことだけでなく、その遺伝的能力を十分に発揮させるために適切な飼養管理を促していくこととしている。

こうしたことから、農林水産省は（一社）中央酪農会議とともに、飼養管理改善による長命連産性向上検討会議を開催し、今般、「乳用牛の飼養管理の改善に係るチエックポイント（以下、「飼養管理改善のチエックポイント」という）」を新たに作成した。

## ●長命連産性向上の効果はどのくらい

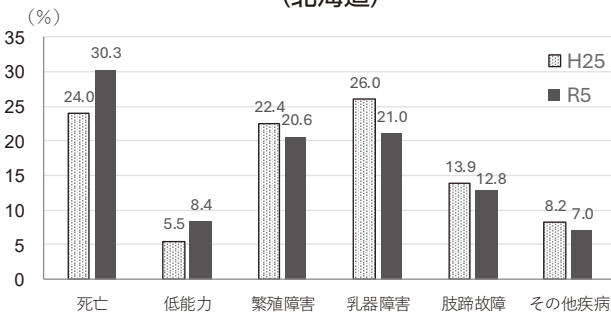
図1に牛群検定成績における平均除籍産次と除籍理由別比率のグラフを示す。これによると、平均除籍産次数は、令和2年以降年々短縮傾向で推移しており、除籍理由については、受胎しない牛を淘汰する「繁

図1 平均除籍産次と除籍理由別比率

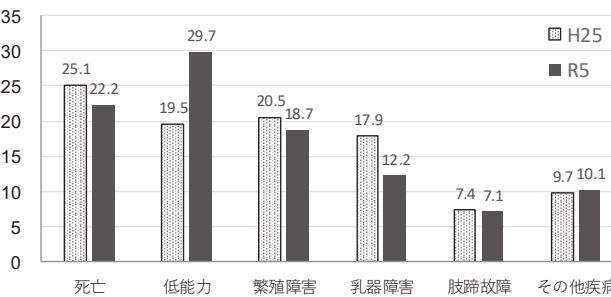


資料：（一社）家畜改良事業団「乳用牛群能力検定成績のまとめ」

除籍理由別比率 (北海道)



(都府県)



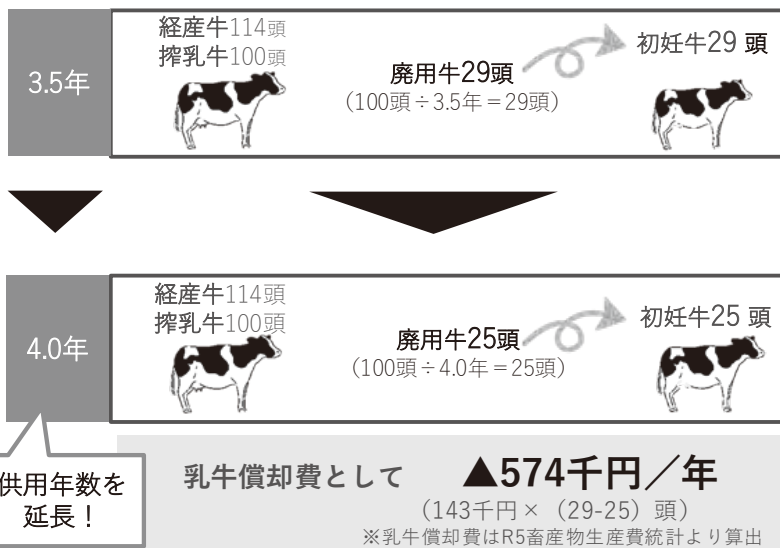
資料：（一社）家畜改良事業団「乳用牛群能力検定成績のまとめ」(令和5年度)

図2 長命連産性向上の効果

例

乳牛償却費の低減

- ・ 搾乳牛の頭数を維持するためには、廃用する頭数と同じ頭数の育成牛を導入。
- ・ 産まれてから生乳生産を開始するまで2年要するため、毎年廃用する頭数の2倍の育成牛が必要。
- ・ 供用期間を延長することにより、毎年確保する**初妊牛頭数**の減少により**乳牛償却費の低減**が見込まれる



殖障害)、乳房炎や乳器損傷などの「乳器障害」、肢蹄潰瘍等の「肢蹄の故障」などとなっていることがわかる。

このような除籍理由となる障害を起さないよう、長命連産性の向上につながる飼養管理を目指すことにより、乳牛償却費の低減や経営全体の出荷乳量の増加といった経営改善が期待できると考えられる。図2に、搾乳牛100頭規模の経営体において、

て、供用年数を3.5年から4.0年に延長した場合の試算を示す。酪農経営においては、搾乳牛頭数を一定に維持することが一般的であるため、供用期間の延長により、毎年確保しなければならない初妊牛頭数を抑えることが可能となる。

酪農経営における生産コスト(支出)は、飼料費に次いで乳牛償却費の割合が高く、その乳牛償却費を1

年当たり574千円の低減が期待できる(令和5年畜産物生産費統計を基に試算)。また近年は、酷暑・猛暑の影響により夏季の受胎率が低下し、受胎時期が秋以降にずれこんでおり、需要期である夏季に泌乳ピークを迎える春産み初妊牛の価格高騰なども影響が出ている。このように乳牛償却費の抑制は経営安定につながる有効な取組と考えられる。

●飼養管理改善のチェックポイントで伝えたいところ

このような長命連産性の向上の効果は、酪農家の皆さんも十分承知のものと思われる。農林水産省でも平成27年に「乳用牛のベストパフォーマンス」を実現するために「以下「10年前のベストパフォーマンス」という)をとりまとめ、飼養管理技術の定着を呼びかけてきた。

他方で、近年は離農に伴い近隣農家の乳用牛を引き受けることによる規模拡大、さらにそれに伴う労働力の確保などの課題もある。酪農家は、家畜管理だけでなく自給飼料生産、経営管理などマルチに活動しなければならぬ。そのような中、酪

農家の方々の経営改善の一助となるよう、今一度、飼養管理の重要性を呼び掛けるとともに、近年の情勢を踏まえた飼養管理改善のチェックポイントを整理することが重要だと思われる。

今回の飼養管理改善のチェックポイントの検討に当たっては、

① 10年前のベストパフォーマンスの検討当時の7つの課題に向き合い、必要な更新を行うとともに、

② 10年前からの情勢の変化に伴い新たな課題となっている(ア)資材価格高騰の対策のための国産粗飼料の活用、(イ)夏季の暑熱対策、(ウ)搾乳ロボット等のスマート農業技術を踏まえ、た飼養管理を盛り込み、

③ 管理別に整理し、(ア)繁殖管理、(イ)飼養管理、(ウ)衛生管理、疾病予防(エ)子牛・哺育管理の4つのテーマに大きく分類した(図3)。

なお、10年前のベストパフォーマンスは、主に搾乳牛の能力の発揮を目的にしたものであり、「子牛・哺育管理」に触れられていなかったことから、今回新たに追加をした。

また、近年の猛暑・酷暑による生乳生産量や受胎率の低下などの課題への対応として、飼養管理改善のチェックポイントには、基本的な暑熱対策や不受胎対策も盛り込んだ。効果的な暑熱対策並びに安定的な後継牛確保は、繁殖管理などが標準化され、飼養管理・酪農経営の安定に資すると考えられる。加えて、飲用乳の需要期である夏季の生乳生産・取引が促され、酪農経営にとっては所得の向上に繋がる可能性があるだろう。

検討会議委員には、全国酪農業協同組合連合会酪農技術研究所の下田所長をはじめ、試験研究機関、酪農家、日頃から営農指導や飼料設計等に携わっている農協・酪農協等の関係機関の有識者の方々にご参加いただき、専門的なご助言を多くいただいたところであり、委員の皆様のご協力にこの場を借りて感謝申し上げます。

●飼養管理改善のチェックポイントの活用と今後の生産現場での普及に向けて

令和8年3月に公表された飼養管理改善のチェックポイントは文

字版の資料(図4)であり、まずは普及センターや農協、牛群検定員などの地域における指導的な立場の皆様へ、生産現場において技術指導を行う際の参考資料として取り扱ってもらいたいと考えている。令和8年度の乳用牛長命連産性等向上緊急支援事業(以下「長命連産事業」という)においては、能力の高い精液等への利用を推進する事業のほか、新たな支援メニューとして、本事業に参画する取組主体(農協等)が、各地域において飼養管理技術の向上のための研修会を開催する際の経費も支援できるようになっている。飼養管理改善のチェックポイント等を活用した研修会の開催についても検討いただければと思う。

図3 新たなチェックポイントの検討の視点

当時の 7つの疑問	生乳生産量	なぜ、生乳生産量が減少しているのか?	
	乳用牛頭数	なぜ、乳用牛の頭数が減少しているのか?	
	事故率	なぜ、分娩事故や子牛の事故が減らないのか?	改善せず
	供用期間	なぜ、乳用牛の供用期間が短縮傾向にあるのか?	悪化
	1頭当たり乳量	なぜ、1頭当たり乳量が伸び悩んでいるのか?	改善
	受胎率	なぜ、受胎率が低下傾向にあるのか?	継続して要改善
	濃厚飼料給与量	なぜ、濃厚飼料給与量の増加が乳量増加につながらないのか?	改善?
+	新たな課題	資材費高騰	飼料費をはじめとした資材費の高騰への対応
	暑熱対策	温暖化による暑熱環境の変化への対応	
	スマート農業技術の進展	スマート農業技術の進展とその利用方法	

これらの課題を解決し、能力を最大限発揮するための改善ポイントを作成

長命連産性の高い牛群への転換

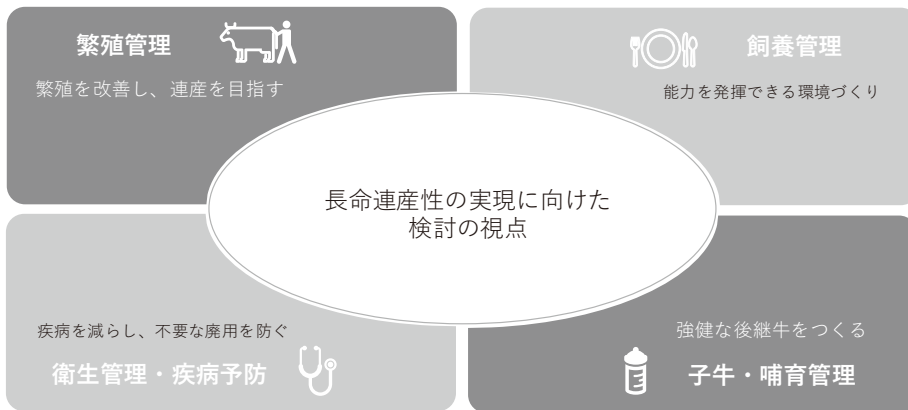


図4 乳用牛の飼養管理の改善に係るチェックポイント



また、令和8年度の長命連産事業では、飼養管理改善のチェックポイントに記載された項目の考え方や図解(夏季の不受胎対策のフローチャート、専門用語の解説、牛舎環境整備のポイント等)などの補足資料を盛り込んで、酪農家向け普及資料の作成を行う予定である。普及資料については、農林水産省や(一社)中央酪農会議のHPへ掲載するだけでなく、農協や検定組合等への配布を行い、更なる適切な飼養管理の促進に活用していただきたい。



# 全酪アカデミー修了生 4組目の 酪農家誕生

今年の元旦、鹿児島県霧島市にて酪農を開始した前田達弥・ヴィオリスカ夫妻は、（一社）全酪アカデミー（熊谷法夫理事長）での研修を終え、鹿児島県霧島市にて新たな牧場経営主としての第一歩を踏み出しました。

2人は、全酪アカデミーに入る前は印刷会社の社員と保育士としてそれぞれ働いていましたが、もともと動物好きな達弥さんに酪農家になりたいという気持ちが沸き起こり、ヴィオリスカさんも一緒にやりたいと思うようになりました。2人は酪農に関する事柄をいろいろ調べて益々興味が沸いてくる中、いざ酪農家になる方法がわからず、令和3年秋に大阪で開催された「新・農業人フェア」に静岡から出向き、そこで全酪アカデミーのブースにたどり着きました。



▲ アカデミー修了証書授与

牛を触ったことがないという2人を前に、当時の全酪アカデミー担当者若干の戸惑いを感じつつも、2人の酪農家になりたいという熱意をしっかりと受け止め、酪農がどのようなものかをまずは体験してみることを勧めました。達弥さんは印刷会社を退職し、全酪アカデミーが間を取り持った静岡県内の牧場で実習を開始。ヴィオリスカさんは保育士の仕事を続けながらも、週末には達弥さんのいる牧場に行き、共に実習を行いました。静岡での実習を1年ほど続け、酪農を続けられると確信した2人は、令和5年4月に全酪アカ

デミーに入職します。全酪アカデミーでの研修期間の2年9か月を加えると、4年ほどの時間をかけて、念願の酪農家になりました。

1月29日、前田牧場のお披露目会が開かれ、全酪アカデミーから記念プレートの授与が行われました。所属する鹿児島県酪農や全酪アカデミー、鹿児島県農林水産部など、就農までに尽力を尽くし支援してきた関係者が多数集まりました。

その後、同市内のホテルに場所を移し、2人の就農を祝う『就農激励会』が執り行われました。激励会には地元酪農仲間も多数参加し、主催者を代表して有村組合長は挨拶の中で、『霧島の地で前オーナーである川崎ご夫妻が愛情をこめて作り上げた



▲ ありがとうございました川崎悟さん、里美さん。ようこそ前田達弥さん、ヴィオリスカさん。



▲ 激励会に駆けつけた  
中重霧島市長



▲ 有村組会長



▲ 前牧場主の川崎悟さん、里美さんと

牧場を引き継いでくれた前田ご夫妻に感謝します』と述べ、ここまで就農支援を続けてくれた関係者にも感謝の意を伝え、2人の前途を祝しました。その後、前牧場主の川崎悟さんから前田夫妻に対して激励の言葉が述べられました。その後半は『これまで長く一緒にやってきてくれたことに、本当に感謝します』と、悟さんの奥様である里美さんへの感謝の言葉となり、大きな花束をプレゼントするというサプライズ企画。会場は

大きな拍手が沸き起り、その後は時間が来るまでにぎやかな雰囲気になりました。

前田さん夫婦は、経産牛54頭、全酪連に委託している育成牛、フリーストール牛舎をはじめとするその他の施設、40haという十分な自給飼料畑も含めた川崎悟さん・里美さんが経営していた牧場をそのまま継承しています。当面は、機械の操作や施設の補修、圃場管理など、悟さんの指導的アドバイスを受けながらも『いずれは川崎さんに追いつき、追い越したい。』と達弥さん。ヴィオリスカさんは、まだ1歳半の娘の翠ちゃんの世話をしながらも『しばらくゆとりはないでしょうが、将来はゆとりのある牧場を目指して、川崎さんご夫妻のような家族一緒の時間を持てるような牧場になれば』とそれぞれ抱負を語っていました。

全酪アカデミーは、酪農就農を志す方々を研修生として最長3年間雇用します。研修生は、給与を受けながら就農支援プログラム（教育カリキュラム）に基づき全酪連関連牧場や賛助会員組合員の契約農場（酪農家）での実践研修や、多岐にわたる



▲ 地元のテレビ局も取材に来ました

分野の座学研修を受けることができます。北海道から沖縄まで全国44の賛助会員から提供される就農候補地の中から研修生が希望する地域とのマッチングをし、事業計画策定、事業継承の手続きなど、賛助会員と連携し多面的にサポートします。上記の第三者継承のほかに、全酪アカデミーは、継承先の経営者とその後継者の要望に応じたプランの『親元就農等養成コース』、将来牧場長を任せたい従業員等を対象とした『ハーズマン（牧場管理責任者）養成コース』、さらに『酪農ヘルパー養成コース』などを取り揃え、酪農業にかかわる人材の育成をこれからも進めていきます。

## ●令和8年度研修生募集



一般社団法人 Zenraku Academy

### 全酪アカデミー

（一社）全酪アカデミーでは、令和8年度の研修生を募集しています。

牧場で働きながら知識や技術を身に付けます。「入学金」や「授業料」などの学費は一切かかりません。現在会社にお勤めの方が退職後も安心して酪農就農を準備できる体制を整えています。

▶ 給与 月給 210,000 円～（夫婦での採用の場合、月給 420,000 円～）

▶ 休日 4週4休（農場研修は月23日程度）

▶ 有給休暇

▶ 借上住宅

▶ 通勤手当

▶ 社会保険

詳しくは、ホームページでご確認ください。

▶ <https://z-academy.org/>

YouTube で動画を公開しています。

▶ [https://youtu.be/Vmy\\_KocOF-g](https://youtu.be/Vmy_KocOF-g)



# 水際対策で

# 家畜伝染病予防を！6

## 関西空港駅改札口にて「動物検疫広報キャンペーン」を関係団体合同で実施

### 「動物検疫広報キャンペーン」関西空港駅実施内容

#### 1. 開催日

令和8年2月18日(木)

#### 2. 実施場所

関西国際空港 南海電鉄・JR西日本駅前

#### 3. 参加者

動物検疫所関西空港支所、神戸植物防疫所関西空港支所、大阪府家畜保健衛生所、全酪連大阪支所

#### 4. 内容

関西空港駅（南海電鉄・JR西日本）改札口前において「肉製品の持ち込み禁止」などの広報用ポケットティッシュを動物検疫所公式キャラクターの「クンくん」と植物検疫所公式キャラクター「ぴいきゅん」とともに観光客に手渡し啓発活動を行いました。活動後に動物検疫所の概要説明・空港内視

察（動植物検疫探知犬等）・意見交換会を行いました。

#### 5. 当日の様子

春節で国の内外の往来が増えるこの時期に家畜伝染病の侵入を防ぐための注意喚起が行われました。去年10月、台湾で初めてアフリカ豚熱に感染した豚が確認されるなど、アジアで家畜伝染病の発生が続いています。こうした伝染病が侵入すると、国内の畜産業に大きな被害が出ることから、ハムなどの加工品を含む肉製品などの持ち込みは法律で厳しく制限されています。関西国際空港はアジア便が多く、侵入リスクが高まっている状況です。メディアの取材もあり、多くの方々に水際対策で実施している取り組みを広めなければならぬと思いました。

家畜の悪性伝染病である口蹄疫やアフリカ豚熱が東アジア諸国でまん延しており、韓国では2026年1月に9か月ぶりの口蹄疫が発生、日本へ侵入するリスクが極めて高い状況が続いています。

日本への侵入を防止するため、渡航者や入国者等に対し注意喚起を行うことを目的に、令和7年は4月の福岡空港を始め、7月仙台空港、8月中部国際空港、10月新千歳空港、11月帯広空港、令和8年は2月の成田空港において順次実施してきた動物検疫広報キャンペーンを、この度関西国際空港においても、動物検疫所関西空港支所と合同で実施しました。今後も国・県・生産者団体が協同・連携して家畜伝染病予防に努めていきます。





▲ 阿部雄太郎さん

阿部牧場

新潟県新発田市

## 牛群改良による 経営向上を続ける！

今回は酪農にいがた農業協同組合（五十嵐潔代表理事組合長、新潟県新発田市）に所属される阿部雄太郎さんの牧場を訪問しました。

### 地域の概要

新潟県新発田市は越後平野（新潟平野）の北部に位置します。市の北西部は日本海に面しており白浜青松と称される美しい海岸線が続きます。市の東部には飯豊連峰や二王子岳といった山々がそびえたっています。市の中心は平野が続き、郊外では水田や枝豆、アスパラガス等の畑が広がります。酸味と糖度が絶妙なバランスのいちご「越後姫」やイチジクといった果樹園も多く見られます。

新発田市の人口は9万人、町そのものは江戸時代より商工業の拠点として発展してきました。当時の歴史的建造物は現在も数多く市内に



新潟県新発田市



残っています。

飯豊連峰からの豊かな雪解け水と米どころの新発田市は地酒でも有名です。市内には四つの酒蔵があり、それぞれが自慢の地酒を全国に販売しています。

### 牧場の概要

阿部さんは41歳、酪農にいがた農業協同組合の監事を務め、組合



▲ 搾乳牛舎



▼ 育成牛・乾乳牛舎

運営に尽力されています。ご家族はご両親と弟、奥様、お子さんお二人です。  
阿部牧場は新発田市郊外にあります。

す。牧場の東側には阿部さんのご自宅を含め多くの住宅が建ち並びますが、西側には広大な田畑が広がっています。

牧場内では搾乳牛舎を囲むように育成牛・乾乳牛舎、堆肥舎、飼料倉庫、作業機倉庫が並んでいます。

搾乳牛舎は繋ぎスタイルで18頭×2列、取材日には経産牛36頭でした。どの牛もリラックスして反芻していました。育成牛・乾乳牛舎には計16頭ほどがいて、こちらものんびりと寝そべったり日向ぼっこをしていたり。なお、育成牛は預託しているものも合わせて18頭いるということでした。

粗飼料は16haの自給飼料地で収穫するイタリアンライグラスやペレニアルライグラスを主体として、輸入牧草チモシーやオーツヘイも使います。配合飼料や地元で入手できる食品製造副産物も給与しています。

最近はいナップル粕の入手もできるようになり、水分調整に気を付けてつつ嗜好性の良さから重宝しているということです。

### 経営の継承

酪農学園大学の短期大学部を卒業後、阿部さんは就農しました。そし

て、阿部さんが取り組んだことは、かつて加入していた牛群検定の再開

でした。飼養管理や繁殖管理において、個体ごとの検定データを読み取り、分析し、的確に対応することは経営向上に欠かせません。

また、阿部さんは地元で発生している食品製造副産物について調べ、酒粕やビール粕を継続的に入手できるように契約しました。米のもみ殻も地元の稲作農家から入手できるようにし、牛床や堆肥舎に豊富に使用できるようにしました。

こうしたさまざまな改善を重ねながら、阿部さんは令和5年1月に牧場の経営をお父さんから引き継ぎました。

### 牛群改良への取り組み

阿部さんは乳量、乳質、繁殖、ボディコンディションスコア等、継続的な個体ごとの能力評価ツール

▼ ビール粕(左) 酒粕(右)



▲ パイナップル粕

として牛群検定データを飼養管理に活用しています。その成果もあり、現在は平均1万2,500kgに届くまでになりました。今後は1万3,500kg到達を目標にいつそうの改善に取り組みたいということです。

阿部さんは人工授精師の免許も持っており、自家採卵とともに効率的な交配計画に雌雄判別精液を活用しています。しっかりと後継牛を確保しつつ、牛群内での個体評価に応じて和牛やF1もつけています。

また、めざましく発達しているゲノム解析に阿部さんは強く興味を持っています。ゲノム検査は5年前から始め



ています。阿部牧場では後継牛を自家育成で揃えられる繁殖環境であることもあり、牧場全体でゲノム解析をフルに活用することができま

### 様々な活動

阿部さんは新潟県酪農同志会の会



▲ サマースイーツフェスタあがの

長も務めています。乳牛改良に係わる研修会や共進会の開催をはじめ、牛乳製品消費拡大活動等も行って

「道の駅あがの」で「サマースイーツフェスタあがの」が開催されますが、新潟県酪農同志会も毎回参加しています。

昨年6月には「牛さんふれあい&乳しぼり体験」として3カ月齢の子牛や搾乳体験コーナーを用意し、子ども連れの家族が数多く来場しました。

阿部さんも多くの来場者と会い、酪農への理解醸成と子どもたちの成長はもちろん大人の健康維持にも欠かせない牛乳製品の大切さを呼び



かけていました。

また、阿部さんは関東甲信越酪農青年女性会議の監事を務めています。6月の「父の日」に牛乳を贈ろう！キャンペーンや毎秋に実施する酪農理解醸成活動に参加していただいているとともに、関東甲信越酪農発表大会の開催運営等にも活躍されています。

### これからの展望

阿部さんにとってキャッシュフローを重視した経営強化、良質な粗飼料を基本として配合飼料や食品製造副産物を活用、優れた後継牛の自家育成といった考えは阿部牧場の経営を引き継いでからも変わっていません。



▲ 堆肥舎

課題は暑熱対策です。牛舎内には送風ファンを設置し、春ごろから秋ごろまでは常に稼働させています。それでも、新発田市でも夏の猛暑はこの数年でひどくなってきました。分娩のずれは多少なりとも発生しているそうです。

また、古くなってきた搾乳牛舎をどうするのか、これについては将来に向けた増頭計画も含めてじっくりと考え中とのこと

そのためには、これからも牛群改良は継続し、経営基盤をいっそう強化させたい、と阿部さんは話してくれました。

阿部牧場のますますの発展を祈念しております。

総務部  
発

## 東日本大震災から15年 消費者の部屋(農林水産省)にて復興牧場 「シャインコーストファーム」ミニ講演

東日本大震災から15年となる3月9日から13日にかけて、農林水産省は『東北3県の現在(いま)と、私たちが創る未来』と題した展示会を、同省北別館に常設された「消費者の部屋」において開催しました。消費者の部屋とは、身近な食生活に関する情報や農水省の取り組みなどを一般消費者に向けてわかりやすく伝えることを目的とした展示室です。

この展示会には、4月に竣工を迎えた福島県浪江町にあるシャインコースト株式会社も取り上げられ、代表取締役専務の山崎正典氏によるミニ講演会が行われました。

山崎氏による講演は、始めに震災発生当時の放射線量の分布図を用いて、被災地の62戸の酪農家、1,317頭の経産牛、日量30tの生乳生産基盤を失った

当時の状況から始まりました。町民の帰還、農業再開を目指す浪江町は、国や関係団体と協議を重ね、耕畜連携を促し農業者が安心して営農できる持続可能な営農継続システムを確立するため大規模酪

農施設を整備し、福島県酪農業協同組合、被災酪農家、全酪連が連携して、酪農業の再生と、酪農業が持つ多面的機能(安定需要、通年雇用、耕畜連携)を活かし、大規模酪農施設で生産される堆肥・液肥により除染で低下した農地の地力を回復し、水稻、園芸、稲WCS、飼料用トウモロコシ等の土地利用型作物による営農再開面積の拡大を図り、持続可能な営農継続システムを確立するために、シャインコースト株式会社が核となる大規模酪農施設整備事業を整備しました。

経産牛1,300頭、哺育・育成牛含めた総頭数約2,300頭規模のシャインコーストファームは、1日82tを処理する能力のあるバイオガスプラントを含めた最新の設備・施設を整え、耕畜連携による地域循環型酪農を目指します。また、全酪連の酪農技術研究所も隣接する場所に移転し、福島大学をはじめとする各研究機関の研究の場ともなり、(一社)全酪アカデミーと連携した次世代の酪農分野の人材育成の研修の場としての役割をはたすことなどを説明しました。

会場には一般の消費者の姿はもちろん、農水省職員の姿も多数あり、被災した福島県の酪農の復興の象徴となるシャインコーストファームに期待し、応援する声が多く寄せられました。(M.I)



▲ 山崎代表取締役専務



▲ ミニ講演



▲ 農林水産省「消費者の部屋」

購買生産指導部  
発

## 東北大学との包括連携協定を締結

3月4日(水)、浪江町役場（福島県）において、東北大学大学院農学研究科（北澤春樹研究科長）・浪江町（吉田栄光町長）・福島県酪農業協同組合（紺野宏代表理事組合長）・シャインコースト(株)（山崎正典代表取締役専務）及び本会の5者による包括連携協定を締結しました。

本協定は、福島県大型酪農施設（シャインコーストファーム）の運営を通じて、5者で農畜産業及びその他産業分野の振興等に関する教育・実習及び研究開発、技術開発等を推進し、連携・協力することで、浪江町を中心とした東日本大震災による被災地域全体の活性化に貢献することを目的としています。

それぞれの代表の方々からは、以下のような熱いメッセージが話されました。

吉田町長「4月に開業するこの大型酪農施設は、単なる生乳生産拠点に留まらず、人材育成・技術開発に大きく寄与するものと考えており、本施設を核として様々な方が交流し、町全体の活性化に繋がることを期待している」。

北澤研究科長「学生の教育の場が展開でき、フィールドでの研究へ発展し、そして地域の産業に貢献して

いきたい」。

工藤常務理事「全国の酪農家へ最新の飼養管理技術等の情報発信の中心となり、また全国の酪農家の手助けとなる人材育成の場になって欲しい。本会酪農技術研究所が本施設の隣接地に建設する予定である。関係者の方と連携し、シャインコーストファームの立ち上げ及び活用に大いに貢献したい」。

紺野代表理事組合長「今回の協定は、農畜業の再生・発展に向けた大きな一歩であり、地域に新たな希望をもたらすものである。若い世代が農業・畜産に触れ、学び挑戦できる環境が整うことは、酪農業の皆にとって大きな力となる」。

山崎代表取締役専務「3年に亘る工事を経て来月完成を迎える。耕畜連携による資源循環型の農業を目指していくことが大きな目的である」。「次世代の酪農業を支える若い人材の育成に貢献したい」。

現在、全国の会員・生産者の研修・教育の場としても運営してきた酪農技術研究所の浪江町移転に向けた準備を進めており、更なる研究開発・人材育成の発展に貢献できるよう、今後も関係機関との連携を精力的に進めてまいります。（S.K）



▲ 左から、紺野代表理事組合長(福島県酪協)・工藤常務理事(全酪連)・吉田町長(浪江町)・北澤研究科長(東北大学)・山崎専務(シャインコースト(株))

東京  
支所発

## 「第53回関東甲信越酪農青年女性会議酪農発表大会」開催！ 7月の全国酪農発表大会は網野雄二さんと荒井芳幸さんが出場！

関東甲信越酪農青年女性会議（月田宗太委員長）は、3月16日（月）に長野県諏訪市「ホテル紅や」において、関東甲信越管内の酪友・関係者110名近くの参加を得て、第53回酪農発表大会を開催しました。

大会は伊藤章広委員（長野県）の総司会に沿い、和泉正行副委員長（栃木県）の開会宣言、阿部雄太郎監事（新潟県）による綱領唱和で始まりました。

その後は月田委員長より主催者の挨拶があり、来賓として農林水産省関東農政局生産部畜産課の尾原博志課長、長野県農政部園芸畜産課の大池英樹課長（土屋孝史主任による代読）よりご祝辞をいただきました。

審査の結果、酪農経営発表の部では長野県酪農青年女性会議の網野雄二さん（伊那酪農業協同組合）が、酪農意見・体験発表の部では栃木県酪農青年女性会議の荒井芳幸さん（酪農とちぎ農業協同組合）がそれぞれ最優秀に選出されました。

網野さん、荒井さんは、7月に沖縄県那覇市内で開催されます第53回全国酪農発表大会において、関東甲信越代表として発表されます。

全国大会でのお二人のご活躍をお祈りしています。  
(I.F)



東京  
支所発「令和7年度 全酪連東京支所 乳用種経産肥育牛枝肉共励会」  
を開催！

2月21日(出)、約1年半ぶりとなる全酪連東京支所主催「乳用種経産肥育牛枝肉共励会」が全日本農協畜産公社（茨城県結城市）において関東甲信越から27名が出席し開催されました。

この枝肉共励会は、酪農家で肥育された経産牛を一堂に会して枝肉の格付評価等を実施し、生産物の高付加価値化を目指した経産牛肥育技術の向上を図り、もって酪農経営の安定に資することを目的として開催しているもので、乳用種経産肥育牛であること、推定生体重 800kg 以上のもの、枝肉重量が 380kg 以上

であると見込めるもの等を出品条件としています。

今回は 19 頭の出品があり、日本食肉格付協会の枝肉格付基準に基づき審査されました。審査の結果、最優秀賞は酪農とちぎ農業協同組合・蓮見晴明氏が出品された枝肉（568kg）となり、68 万円（税込み）を超える値を付けました。なお、19 頭の平均枝肉重量は 427kg でした。

また、枝肉共励会と併せて、日本食肉格付協会・下妻事業所の加藤雄大所長から枝肉の見方に関する研修講演も開催されました。（I.F）



名古屋  
支所発「系統飼料(全酪連)知多牛枝肉研究会」が  
盛大に開催！

「系統飼料(全酪連)知多牛枝肉研究会」が、令和8年2月2日(月)に大阪市中央卸売市場南港市場(大阪市住之江区南港)で盛大に開催されました。

これは、全酪連の肥育飼料を給与した肥育牛を対象としたもので、今回出品した頭数は全部で33頭。交雑種牝6頭、交雑種去勢22頭、和牛牝2頭、和牛去勢3頭であり、今回の研究会は交雑種で競われました。

交雑種全体の結果は平均枝肉重量が牝504.6kg、去勢が543.4kgでkg単価は牝が1,645円、去勢が1,565円でした。各付はB等級以上が約88%、ほぼ全ての枝肉が3等級以上、また全体の半数以上が4等級以上という高い水準の研究会でした。血統では「知恵久」「貴隼桜」の存在感を示していました。

今回の研究会で最優秀賞となったのは交雑種牝25.12ヶ月齢「知恵久」1号の出品牛で枝肉重量は484.8kg、格付A5、BMS(脂肪交雑 赤身の肉にどれだけサシ(霜降り)がはいっているのか)No.10、BCS(肉色及び光沢)No.4の成績を収めました。kg単価は2,067円でした。

また優秀賞には交雑種去勢27.14ヶ月齢「福之鶴」18号の出品牛が、優良賞には交雑種去勢25.23ヶ月齢「知恵久」12号の出品牛が輝きました。

ご出品頂きました生産者の方々に、この場をお借りして厚く御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。(S.K)



▲ 最優秀賞の原田牧場・原田拓芳さん

名古屋  
支所発

## ブラックアンドホワイトショウ開催

3月26日(木)愛知県畜産総合センター ふれあいドーム、3月27日(金)JA全農岐阜 関家畜流通センターにて中部地域のブラックアンドホワイト(B&W)ショウが開催されました。和やかな雰囲気の中、素晴

らしい資質を持ったホルスタイン牛が出品され、激戦が繰り広げられました。バックヤードではあちらこちらに親子で準備する様子や牛の評価の講習をする姿が見られました。(N.S)



▲説明を熱心に聞き入る学生たち



▲審査の様子



▲親子で協力して準備

大阪  
支所発全酪連近畿中四国酪農団体協議会  
「令和7年度管外視察研修会」を開催

全酪連近畿中四国酪農団体協議会(檜尾会長、18会員)は、令和8年1月21日(水)~23日(金)の日程で、沖縄県八重瀬町の沖縄県酪農農業協同組合、株式会社八重瀬堆肥センターに訪問しました。バイオガスプラントは乳用牛糞尿処理や食品残さ等の廃棄物を原料と

したメタン発酵処理施設です。施設代表の新里代表取締役に施設、経営方針などご説明頂きました。そして沖縄県酪農農業協同組合にて組合の取り組み、情報交換を行いました。(A.O)



▲沖縄県酪農農業協同組合



▲八重瀬町バイオガスプラント

福岡  
支所発中国・四国・九州地域農協乳業協議会  
「新年意見交換会」を開催

2月18日(水)、福岡支所が事務局を務める中国・四国・九州地域農協乳業協議会（会長：有村義昭 南日本酪農協同(株)代表取締役会長）は、福岡市博多区の貸会議室において、恒例の「新年意見交換会」を開催しました。当日は、中国・四国・九州の各生乳販連の代表者を来賓に迎え、地域の農プラ会員12団体から役員を中心に計27名が集まりました。

冒頭、有村会長の開会挨拶に続き、（一社）中央酪農会議 事務局長 寺田繁氏および（一社）Jミルク 事務局次長 林雅典氏より講演が行われ、酪農・生乳需給をめぐる最近の情勢や、国産牛乳・乳製品の需要拡大に向けた業界一体での取り組みについて理解を深め

ました。

意見交換では、学乳に関わる質疑が行われ、福岡市の牛乳に代えて緑茶などを提供する動きに対し、酪農家・乳業への影響、さらには栄養面の課題などについて、生処関係者が連携し行政へ働きかけを行っている現状が稗島代表理事常務（九州生乳販連）より報告共有されました。

その後の懇親会の中では、久しぶりの再会を楽しみつつ、活発な情報交換を行い、交流を深めました。今後も当協議会では、農プラの組織間・実務間・人的交流の促進を通じて、地域内農プラの連携強化に努めてまいります。（T.S）



▲ 中央酪農会議 寺田事務局長の講演



▲ Jミルク 林事務局次長の講演



▲ 九州生乳販連 稗島常務の報告

福岡  
支所発

## 熊本県酪農専門農協協議会、 「通常総会」にて記念講演を開催

2月27日(金)、熊本県酪農専門農協協議会(山田政晴会長 西阿蘇酪農業協同組合組合長)は、KKRホテル熊本(熊本市)にて第27回通常総会を開催するとともに記念講演を実施しました。

今回の総会は、会員10酪農専門農協のうち、令和8年4月の合併を控えた6酪農専門農協(熊本乳牛農業協同組合、玉名酪農業協同組合、鹿本酪農農業協同組合、大阿蘇酪農業協同組合、西阿蘇酪農業協同組合、火の国酪農業協同組合)が参加する最後の総会となりました。

従来は、総会に合わせて組織整備に関わる全体会議が開かれていましたが、熊本県内の酪農専門農協の

合併方針が明確になってきたことから、今回は記念講演が企画されました。

講演には、工藤常務理事(全国酪農業協同組合連合会)が講師に招かれ、『全国の組織整備状況と今後の酪農情勢について』と題して講話しました。特に福岡支所長在任中の経験に基づく「酪農組織の活動による成果」については、九州・沖縄の酪農が数々の困難な状況に直面した際、酪農組織が一致団結して取り組んだ災害対応や政治活動の具体例を紹介し、参加者が酪農専門組織の重要性を再認識する機会となりました。(T.S)



▲ 山田会長の挨拶



▲ 来賓祝辞(熊本県酪連 隈部会長)



▲ 工藤常務の講演

福岡支所発

# 3月開催 「第53回九州酪農青年女性酪農発表大会」

3月11日(水)、九州酪農青年女性会議（中村俊介委員長）および全酪連福岡支所共催による「第53回九州酪農青年女性酪農発表大会」が、宮崎市「ニューウェルシティ宮崎」にて開催され、九州・沖縄各地から155名の酪友が集まりました。

今回は新たな試みとして、例年の4月開催を3月とし、九州沖縄地域を南北2ブロックに分けた代表発表方式を導入しました。

開会式では、中村委員長の挨拶に続き、来賓の農林水産省九州農政局生産部から森武浩一畜産課長、宮崎県農政水産部畜産局から佐藤博士畜産振興課長

補佐、宮崎県農業協同組合から平島善範副組合長がご祝辞を述べられました。

審査員長(酪農経営発表の部)の山田明央氏((独)九州沖縄農業研究センター事業化推進農業技術コミュニケーションスタッフ)は、「自給飼料や地域に根差した足腰の強い酪農経営という意味では横綱級のお2人であり、それゆえに評価が非常に難しかった」と講評を述べられました。

審査委員長(酪農意見・体験の部)の松田仁氏(九州酪農青年女性会議顧問)は、「酪農に対する思いや体験、そして日々の取り組みについて、非常に貴重なお話を伺うことができた」と述べ、発表者を労いました。

●酪農経営発表の部

題名	所属	氏名
『地域に根差した足腰の強い酪農経営を目指して』 ～見える化・省力化・自給飼料で赤字経営からの脱却～	ふくおか県酪農青年女性会議	江藤 健太郎
リフレッシュしながら黒字経営を目指す	宮崎県酪農青年女性連絡協議会	株式会社福留牧場 福留 寛行

●酪農意見・体験発表の部

題名	所属	氏名
家族の絆 ～動き出した私たちの酪農経営～	鹿児島県酪農青年女性会議	株式会社西田酪農 横山 さとみ
牛に魅かれて	長崎県酪農青年女性会議	溝田 大典

続いて、(株)ファームサポーターズ・ラボ 岡部由美子 代表取締役による講演『個々の経営を強くする「繋がり」の力』が実施され、具体例を交えた分かりやすい内容に、参加者は真剣に聞き入っていました。

大会終了後の交流会の場では九州・沖縄各地の酪友同志が親睦を深められました。アトラクションとして、地元「やろかい清和」による「ひょっとこ踊り」

が披露され、会場は大いに盛り上がりました。

最優秀賞(九州農政局長賞)を受賞されたお二方は、7月に沖縄県で開催される「第53回全国酪農青年女性酪農発表大会」において、九州代表として出場予定です。全国大会でのお二人のご活躍を期待しております。(M.Y)



▲ 最優秀賞(九州農政局長賞)：福留寛行さん(宮崎県)



▲ 最優秀賞(九州農政局長賞)：横山さとみさん(鹿児島県)



▲ 交流会アトラクション ひょっとこ踊りの皆様と記念撮影



▲ 農林水産省九州農政局 生産部 森武浩一畜産課長



▲ 宮崎県 農政水産部 畜産局 佐藤博士畜産振興課長補佐



▲ 宮崎県農業協同組合 平島善範副組合長



▲ 九州酪農青年女性会議 中村俊介委員長



▲ 講師 (株)ファームサポーターズ・ラボ 岡部由美子代表取締役

## 原稿募集

### 「酪農トピックス」では皆様からの記事を募集しております

共進会、B&W、酪農祭り、親睦スポーツ大会といった催事情報から組合住所の変更や移転等案内情報、そして直営店情報や組合の自慢情報まで、酪農トピックスでは会員の皆様からの原稿を募集しております。本コーナーは会員の皆様の情報交換の場です。ぜひご活用ください。

送付先 皆様のお近くにありますが本会支所までご送付・ご連絡ください。

#### ■札幌支所

〒060-0003  
札幌市中央区北3条西7丁目1 酪農センター 5階  
tel. 011-241-0765

#### ■名古屋支所

〒460-0008  
名古屋市中区栄1-16-6 名古屋三蔵ビル3階  
tel. 052-209-5611

#### ■仙台支所

〒980-0014  
仙台市青葉区本町2-10-28 カメイ仙台グリーンシティ 8階  
tel. 022-221-5381

#### ■大阪支所

〒532-0011  
大阪市淀川区西中島5-14-10 新大阪トヨタビル6階  
tel. 06-6305-4196

#### ■東京支所

〒151-0053  
東京都渋谷区代々木1-37-2 酪農会館4階  
tel. 03-5931-8011

#### ■福岡支所

〒812-0016  
福岡市博多区博多駅南1-2-15 事務機ビル7階  
tel. 092-431-8111

## 全酪連2026年の ニューフェイスが集結!

4月1日（水）、全酪連本所 酪農会館（東京都渋谷区）において令和8年度新入職員入会式が行われ、今年度は、大学・大学院卒業が23名、高校卒業が1名入会しました。  
これからよろしくお願いたします。





## 日本酪政連

### ヘルパー含む担い手確保対策要請 任期満了、臼井勉氏が新委員長に

日本酪農政治連盟は3月4日、都内で中央委員会および通常総会を開き、令和8年度運動方針など全議案を原案通り承認した。来年度も引き続き、需給調整対策や酪農生産資材の高騰、国産飼料の増産、酪農ヘルパー要員も含めた担い手確保等に対する支援確保に向けて要請活動を展開する。任期満了に伴う役員改選では、新委員長に臼井勉副委員長（栃木）が選任された。

令和8年度運動方針のうち、重点施策は①生乳の需給調整対策に対する支援対策②高騰する酪農生産資材に対する支援対策③国産自給飼料増産対策④酪農ヘルパーの要員確保も含む酪農後継者の担い手確保

対策⑤有害鳥獣被害対策⑥公立高校に対する給食用牛乳の推進に関する活動——に加え、産業動物獣医師の中長期確保のための支援対策拡充など「その他の対策」を含めた7項目。「軽油引取税の免税措置の恒久化」等の税制改正事項とともに、実現を目指す。

また、飲食料品をめぐる消費税の減税に関しては、酪農経営の影響など状況を注視しつつ、必要な場合は経営負担軽減措置を要請していく。

通常総会終了後には各地域からの情勢・現状報告や意見が寄せられた。食料品の消費税率2年間ゼロ%について全国の生産者から心配の声が上がっていると、「酪農家へ負担の

かからないよう、万全の対策をお願いします」「影響をどう緩和していくか。そしてそれを支援していただけるかを先生方や農水省に訴えていきたい」などの声が相次いだ。

総会後の中央常任委員会では、柴田輝男委員長、宮本貞治郎副委員長、坂本保幹理事長が退任。新委員長に臼井副委員長（栃木）、新副委員長に山田政晴氏（熊本県）、新幹事長に南部顯弘氏（事務局長）が選任された。柴田氏は副委員長（会計責任者）に選任。清水清人副委員長、佐藤哲副委員長、和田慎吾副委員長は再任された。

臼井委員長は「今後酪政連を中心



▲ 臼井新委員長

に、第一次産業の仲間と特に農林漁業に強い先生方へ要請していく。微力ではあるが、ご指導・ご鞭撻をいただきながら、活動していきたい」と就任の抱負を述べた。

（3月10日号）

## Jミルク・令和8年度事業

### 業界拠出で脱粉在庫1万3千トン削減へ 飼料用・調製品との置換え、輸出で対応

Jミルクは1月下旬に発動を決定していた令和8年度の酪農乳業需給変動対策特別事業（脱脂粉乳在庫削減対策）の実施対象数量を決めた。

事業期間は令和8年4月から翌令和9年3月。対象は在庫として保有する脱粉で、数量は『脱粉1万3千ト

ン』。2月6日の戦略ビジョン推進特別委員会でも方向性を確認し、同月26日開催の理事会で報告した。

対象数量の内訳は、全国連（J A 全農、全酪連）が一括で買い取り、飼料向けに販売する「第1実施対策」に5500トン、輸入調製品等への

置換えや輸出向けが対象となる「第2実施対策」に7500トン（うち輸入調製品等への置換え6千トン、輸出向け1500トン）を設定した。特別事業は、国内全ての生産者・

乳業者の拠出による基金を活用し実施するもの。令和8年度も今年度同様、1年間で造成される拠出金に相当する、21億円程度を見込んでいる。（3月10日号）

### 北海道農政部調べ

道内のフリー・パラ普及率35%に上昇  
ロケット搾乳は微増、全体の11.6%

北海道農政部はこのほど、道内における令和7年2月現在の「新搾乳システム」の普及状況（通称フリー・パラ調査）を取りまとめた。フリー・ストール牛舎やミルクングパーラー（搾乳ロボット含む）の両方を保有する酪農家は1554戸で、前年に比べ3戸増。普及率は35.3%で1.6ポイントの上昇。また、搾乳ロボットの保有戸数は7戸増の510戸。普及率も11.6%で0.7ポイント上昇した。

ミルクングパーラーの保有戸数は1567戸で前年比5戸増、普及率は35.6%で1.7%上昇。また、フリーストール牛舎の保有戸数は1595戸で17戸減、普及率は36.3%で1.3%上昇した。

フリーストール牛舎とミルクングパーラーの両方を保有する酪農家（1554戸）を地域別で見ると、最も多いのは例年同様に十勝で469戸（5戸増）、普及率は49.3%と前年より2.1%上昇。次いで、根室388戸（6戸増）で普及率40.6%（1.9%上昇）、釧路251戸（6戸減）で普及率40.1%（1.7%上昇）、で普及率35.0%（1.4%上昇）など、各地域で普及が進んでいる。

経営規模別で見ると、ミルクングパーラーを保有する経営体、フリーストール牛舎を保有する経営体ともに経産牛100頭以上使用する経営体が7割近くを占めている。

（2月20日号）

フリーストール牛舎・ミルクングパーラー保有状況（2025年2月1日現在）（単位：戸）

区分	生乳出荷農家数	パーラー	普及率	フリーストール	普及率	フリー・パラ	普及率
空知	44	13	29.5%	14	31.8%	13	29.5%
石狩	100	35	35.0%	35	35.0%	35	35.0%
後志	44	4	9.1%	3	6.8%	3	6.8%
胆振	68	9	13.2%	9	13.2%	8	11.8%
日高	98	6	6.1%	8	8.2%	6	6.1%
渡島	105	15	14.3%	16	15.2%	15	14.3%
檜山	58	4	6.9%	4	6.9%	4	6.9%
上川	203	57	28.1%	56	27.6%	55	27.1%
留萌	95	13	13.7%	13	13.7%	13	13.7%
宗谷	438	80	18.3%	81	18.5%	80	18.3%
オホーツク	611	215	35.2%	215	35.2%	214	35.0%
十勝	952	474	49.8%	483	50.7%	469	49.3%
釧路	626	252	40.3%	253	40.4%	251	40.1%
根室	956	390	40.8%	405	42.4%	388	40.6%
全道計	4,398	1,567	35.6%	1,595	36.3%	1,554	35.3%

（参考：2024年2月1日現在）	4,603	1,562	33.9%	1,612	35.0%	1,551	33.7%
------------------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

### 全酪新報

- 人が牛乳を必要とし、牛肉を必要とし、緑を必要とする限り、酪農は誇り高い永久の仕事です。
- 明日へ向かって前進する酪農界の動きを全酪新報は正確に報道します。時に怒りの声を、時に喜びの声を…幅広くお伝えします。
- ご家族でご愛読いただける酪農専門紙です。
- 毎月1日、10日、20日発行、年間購読料は6,600円（税込・送料込）です。
- お支払（請求書到着後）は、郵便振替、銀行振込、クレジットカード決済がご利用いただけます。
- 見本紙ご希望の方はお申し出下さい。無料です。（見本紙にバックナンバーは含まれません）

全酪新報/  
購読お申込フォーム



一般社団法人 **全国酪農協会**

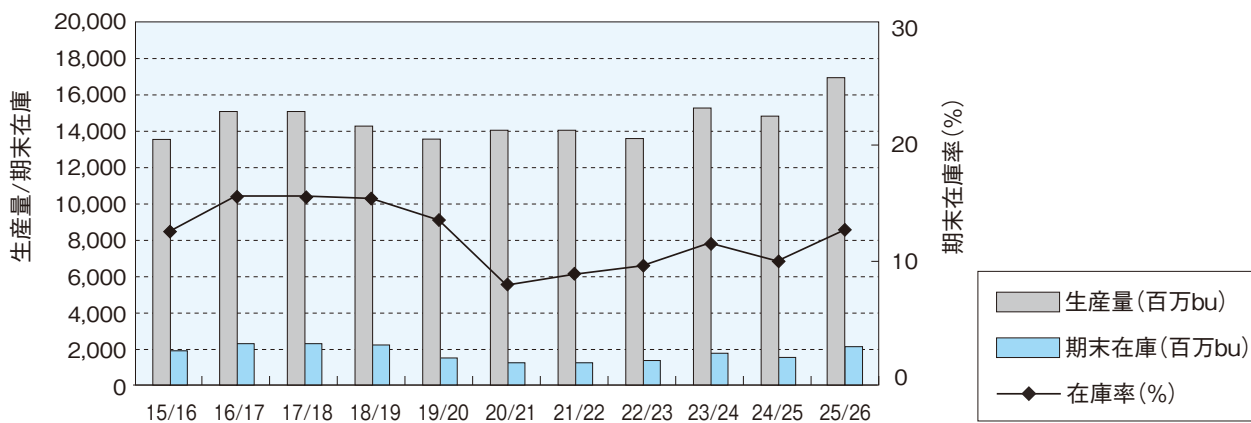
電話 03 (3370) 7213  
www.rakunou.org



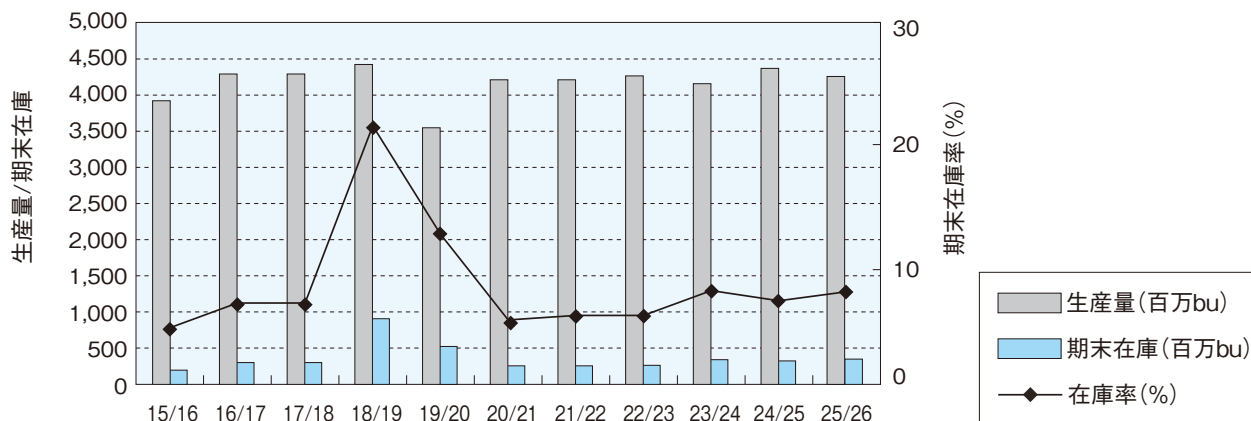


		24/25年産	25/26年産
3月10日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積 (百万エーカー)	90.9	98.8
	単 収 (ブッシェル/エーカー)	179.3	186.5
	生 産 量 (ブッシェル)	166億7,700万	185億9,700万
	需 要 量 (ブッシェル)	151億2,600万	164億7,000万
	期末在庫 (ブッシェル)	15億5,100万	21億2,700万
	在 庫 率	10.25%	12.91%
トウモロコシ 相場動向	需給予想について、全ての項目において前月比据置となった。シカゴ定期は、輸出成約高の好調な報告や中東情勢悪化に伴う原油価格の急騰を背景に、連れ高となり上昇した。南米全体では大きな供給不安は見られず、供給環境は概ね安定しているため、当面は中東情勢の動向を注視しつつ、価格水準を見極める展開となる。		
大豆粕 相場動向	大豆粕は高値で安定していたが、直近では大豆のシカゴ定期で中東情勢と原油高を材料とした買いが入り、暴騰していることから更に値を上げている状況。大豆は南米も豊作見込となっているが、中東情勢が大きく影響し値下げには寄与していない。		
糟糖類	【一般フスマ】 発生は引き続き順調に推移する見通し。需要についてもグルテンフィードの代替として堅調であり、潤沢にあった在庫が取り崩されており、需給は締まってきている。		
	【グルテンフィード】 1月から値上げになった影響から、引取の減少が継続している。配合率が減少しており需給は緩んできている。今後本格的な発生時期に入るため更に在庫が積み上がる可能性もある。輸入品も一定量は入船すると思われ、受渡には問題はない見込。		
海上運賃	海上運賃は、ホルムズ海峡の事実上の閉鎖など中東情勢の悪化を背景に、原油供給への懸念が高まっていることから堅調に推移している。また、同海峡の閉鎖に伴い、世界の船腹需給にも混乱が生じており、備船料も高止まりしている状況で、情勢が落ち着くまでは不透明感が続く見通し。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移





海運情勢	<p>2026年2月28日にアメリカとイスラエルがイランに軍事侵攻を開始し、中東情勢が急激に悪化しております。イランが湾岸諸国の石油関連施設に攻撃したことで施設操業の一部停止し、ホルムズ海峡を事実上封鎖されたことにより、原油価格および船用燃料価格が急騰しました。原油価格の指標となる「米国産WTI原油」の先物価格が一時、1バレル=110ドル台に達しました。110ドル台をつけたのはロシアによるウクライナ侵攻後の2022年7月以来となり、約3年8カ月ぶりとなります。今後はコンテナ定期船の運賃や海上輸送における影響について、注視していく必要があります。</p> <p>北米西海岸航路においては、2月中旬にカリフォルニア州での降雨およびユタ州山間部での降雪の影響により、米国内のトラック輸送に乱れが生じました。この提供を受け、輸送スケジュールの遅延の可能性が高まっております。</p> <p>日本国内においては、一部ターミナルでは慢性的な人手不足やコスト上昇を背景とした作業料金の改定が進んでおります。</p>
米国産 ビートパルプ	<p>25年産ビートパルプの生産は終了しています。ヨーロッパやメキシコなどの輸出向けの需要が引き続き強く、産地相場も値上がりしているため、産地価格についても上昇傾向にあります。ただ、米国以外の産地でも同様に上昇しており、価格は底堅く推移すると予想されています。</p>
アルファルファ	<p>産地であるワシントン州コロンビアベースン、オレゴン州クラマスフォールズではアルファルファは休眠状態になっています。生産農家は、昨今の取引価格の低迷を受け、生産意欲は減退しており、チモシー、じゃがいも、玉ねぎなどの換金性の高い作物へ転作する動きが見られております。そのため、26年産の作付面積は前年比で減少する見通しとなっております。</p>
スーダングラス	<p>25年産の作付面積は前年比で微増しました。近年は日本向け需要が縮小しており、産地価格も低迷していることから、生産農家の作付意欲も低迷しております。</p>
クレイングラス	<p><b>クレインは全酪連の登録商標です。</b></p> <p>25年産のクレイングラスは日本や韓国向けで堅調に推移しています。また、カリフォルニア州南部インペリアルバレーの砂糖大根工場の閉鎖に伴い、クレイングラスへの転作を行う生産農家もいるため、25年産と比べ作付面積が増加すると予想されております。</p>
ストロー類	<p>主産地であるオレゴン州では生育期における降雨不足の影響により、生産量は例年よりも2割～3割ほど減少しました。生産量は減少しているなかで、韓国を中心とした諸外国からの引き合いが強い状況が続いております。</p> <p>26年産の収穫は8月より始まる予定ですが、産地での引き合いが高いため生産農家の売り渋りが懸念されております。そのため、産地価格が上昇すると予想されており、10月頃まで需給も逼迫と予想されております。</p>
カナダ産 チモシー	<p>主要産地であるアルバータ州南部（灌漑地域）では、1番刈りは8月下旬に終了したものの、収穫期に断続的な降雨が続いた影響で刈遅れが多発し、上級品の発生は極めて限定的となりました。</p> <p>また、アルバータ州中部（非灌漑地域）においても25年産の収穫は完了しておりますが、生育期の天候不良の影響により中級品以下の比率が高く、全体として品質のばらつきが確認されております。</p>
豪州産 オーツハイ・ ウィートストロー	<p>全地域において25年産オーツハイの収穫作業が完了しております。</p> <p>西豪州では、生育期の天候が概ね安定していたことから、降雨前に収穫作業を終えられた圃場が多くあり、全体として外観品質の良いロットが比較的豊富に確保されました。</p> <p>一方で、南豪州および東豪州沿岸部では収穫期の降雨影響が大きく、輸出向けに適さない低級品の発生が目立ちました。東豪州では乾燥が順調に進んだことで上級品の確保も進みましたが、地域間で品質のばらつきが見られる状況です。</p>

※粗飼料情勢の全文は弊会ホームページに掲載しています。

第53回

# 全国酪農青年女性 酪農発表大会

in  
沖縄

令和8年

7/9 木  
10 金

## 日程

7月9日 木

13:00~13:45 開会式  
13:45~15:45 酪農経営発表  
16:00~17:55 酪農意見・体験発表  
19:30~22:30 懇親会

7月10日 金

9:00~10:30 審査講評・表彰式・閉会式

## 大会会場・アクセス

### 会場

「ロワジュールホテル那覇」

〒900-0036

沖縄県那覇市西 3-2-1

Tel 098-868-2222 (自動ガイダンス)



### アクセス

それぞれ那覇空港より

- ゆいレールの場合  
旭橋駅から徒歩約15分
- 車の場合  
うみそらトンネル経由で  
約7分。



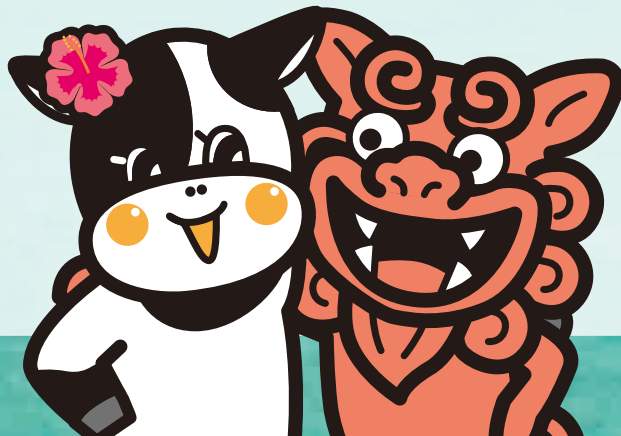
## 大会参加費

1名 **5,000円** (大会のみ)

1名 **20,000円** (大会・懇親会)

※懇親会は3時間です。

※宿泊につきましては、各地域会議事務局にお問い合わせください。



# 作品募集のお知らせ

第52回

## らくのうこどもギャラリー

### ① 募集規定

- (1)酪農を中心とした題材の図画（大きさ、技法は自由）
- (2)自作で未発表のものに限ります。
- (3)作品には、**題名・住所・氏名・振り仮名・年齢・学校名・学年・保護者名を必ず記載してください。また、酪農家の子弟については保護者の所属組合名を記載してください。**
- (4)作品返却を希望される方は応募時に返却希望の旨を申し出てください。

### ② 応募資格

4歳から中学生までの酪農家の子弟、および酪農に関心のある一般のお子さん。

### ③ 締切日

令和8年5月29日(金) (必着)  
または、各地域会議締切日に準ずる。

### ④ 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性会議事務局宛に提出してください。

### ⑤ 審査結果の発表

「第53回全国酪農青年女性酪農発表大会」の発表要旨、および全酪連会報7月号に審査結果を掲載いたします。

### ⑥ 褒賞

- ・特選 1点
- ・入選 4点
- ・秀作 若干
- ・ファミリー賞 若干  
(牛とのふれあいなど、ほのぼのとした雰囲気を持つ作品に贈られます)
- ・あすなる賞 若干  
(小学校入学以前の方の優秀作品に贈られます)

◎入賞者には記念品を贈呈いたします。

◎図画の優秀作品は、作者の顔写真・審査講評と共に「全酪連会報」の最終ページに掲載します。



第51回 特選  
「うしさん」  
村上陽香さん

第16回

## 酪農いきいきフォトコンテスト

全国酪農青年女性会議では、酪農家の生活や牛乳の生産現場をより鮮明に消費者に伝えていくことを目的に、「酪農いきいきフォトコンテスト」を実施します。

つきましては、下記のとおり作品を募集しますので、ふるってご応募いただきますようお願いいたします。

### ① テーマ

- (1)「乳牛のいる風景」
  - (2)「酪農作業風景」
- ※いずれも、酪農家がいきいきと牛乳生産に励む様子や、安心安全な牛乳生産のため懸命に仕事に取り組む姿勢が感じられるようなもの。

### ② 募集規定

- (1)写真は可能な限りデータで提出してください。
- (2)自作で未発表のものに限ります。
- (3)作品には、**題名・氏名・振り仮名・住所・所属組合名を必ず記載してください。**

(4)応募点数：お1人様 1作品のみ

### ③ 応募資格

酪農家

### ④ 締切日

令和8年6月22日(月) (必着)  
または、各地域会議締切日に準ずる。

### ⑤ 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性会議事務局宛に提出してください。



第15回 特選  
「子宮捻転お産中 がんばれ～牛さん」  
吉田明美氏 撮影

または、下記応募フォームからもご応募可能です。

→<https://form.run/>

@zen-rakuseijo-isrslv40YR7rip9DTG2w



### ⑥ 審査方法

応募作品を「第53回全国酪農青年女性酪農発表大会」の会場内に掲載し、大会参加者の投票による審査を行います。

※応募多数の場合は事務局による予備審査を行います。

### ⑦ 審査結果の発表

- (1)「全酪連会報」にて発表します。
- (2)「全酪連会報」の表紙に使用します。(号数未定)

### ⑧ 褒賞

- ・特選 1点
  - ・入選 若干
- ◎入賞者には賞品を贈呈いたします。  
◎提出していただいた作品の返却はいたしません。  
◎応募していただいた作品は、全酪連会報およびカレンダーへの掲載を含め、今後各地での牛乳消費拡大活動(「父の日に牛乳を贈ろう!」キャンペーン含む)等で使用することがありますのでご了承ください。

提出先一覧

#### ●北海道酪農青年女性会議

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1  
酪農センター5階 全酪連札幌支所内  
TEL 011-241-0765

#### ●東北酪農青年女性会議

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町  
2丁目10番28号 カメイ仙台グリーンシティ8階  
TEL 022-221-5381

#### ●関東甲信越酪農青年女性会議

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-37-2  
酪農会館 全酪連東京支所内  
TEL 03-5931-8011

#### ●中部酪農青年女性会議

〒460-0008 名古屋市中区栄1-16-6  
名古屋三蔵ビル3階 全酪連名古屋支所内  
TEL 052-209-5611

#### ●西日本酪農青年女性会議

〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-14-10  
新大阪トヨタビル6階 全酪連大阪支所内  
TEL 06-6305-4196

#### ●九州酪農青年女性会議

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-2-15  
事務機ビル7階 全酪連福岡支所内  
TEL 092-431-8111



日本酪農  
政治連盟

# 酪政連活動報告

令和8年1月～3月

1/27	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第51回衆議院選挙が公示される。 正副委員長は投票日前日まで全国の酪政連推薦候補者の陣中見舞いを実施（酪政連推薦候補者、全員当選）</li> </ul>
2/12	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正副委員長会議を開催（於：酪農会館） 第51回衆議院選挙結果について報告</li> </ul>
2/13	<ul style="list-style-type: none"> <li>●三役会議を開催（於：酪農会館） 高校生への牛乳消費拡大に向けた取り組みについて、全酪連 佐藤常務より説明を受ける。</li> </ul>
2/16	<ul style="list-style-type: none"> <li>●令和7年度TPP等対応検討幹事会（日本の畜産ネットワーク）に出席</li> </ul>
2/18	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農林水産大臣に鈴木憲和氏（山形県）が再任</li> <li>●監事監査（於：酪農会館）</li> </ul>
2/19	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事務局長・事務局担当者会議を開催（於：自由民主党本部） 農林水産省畜産局牛乳乳製品課 平田課長補佐が「酪農をめぐる情勢 令和8年度酪農関連対策等について」講演</li> </ul>
2/24	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第51回衆議院選挙 自由民主党当選議員表敬訪問（於：衆議院議員会館） 柴田委員長が議員に当選祝いを兼ねて面会及び要請活動</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <span>▲ 自民党酪政会会長 森英介衆議院議員</span> <span>▲ 酪政連顧問 森山裕衆議院議員</span> <span>▲ 自民党酪政会事務局長 伊東良孝衆議院議員</span> </div>
3/4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●三役会議、中央委員会、通常総会、中央常任委員会を開催（於：自由民主党本部） 中央委員会では顧問森山 裕衆議院議員にご挨拶をいただく。 通常総会は40会員80名出席、令和8年度運動方針を含む上程した議案はすべて承認</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;">    </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <span>▲ 通常総会</span> <span>▲ 酪政連 森山顧問挨拶</span> <span>▲ 臼井委員長 新任挨拶</span> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>●中央常任委員会では役員の互選が行われ、以下の通り役員が選任された。 委員長 臼井勉 会計責任者 柴田輝男 副委員長 柴田輝男、清水清人、佐藤哲、和田慎吾、山田政晴 幹事長 南部顯弘</li> <li>●会議終了後、自由民主党酪政会との懇親会を開催、議員105名（代理を含む）が出席</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <span>▲ 自民党酪政会 森会長挨拶</span> <span>▲ 自民党酪政会との懇親会</span> </div>
3/5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●農林水産省を新役員が訪問（於：農林水産省） 新役員にて農林水産省を訪問し、関係部署との令和8年度政策・予算確保に関する要請内容について意見交換</li> </ul>



# 乳牛産地情報

令和8年4月1日現在

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇐……やや弱含み ↓……弱含み

札幌支所 TEL 011-241-0765  
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232  
 根室駐在員事務所 TEL 01537-6-1877  
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051  
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	40~50	→	札幌管内における3月中旬までの生乳生産量の前年比は、函館管内が月計95.2%・累計99.1%、苫小牧管内が月計97.1%・累計98.4%となっております。4月の初妊牛につきましては、6月中旬~7月分娩が中心となる見込みです。夏分娩牛の出回り開始に伴い、資源の増加および都府県からの需要減少により、相場は軟調に推移する見込みですが、前年と比較すると高値で推移する見込みです。腹別の資源につきましては、雌雄選別腹およびF1腹ともに確保可能な状況です。当管内における庭先購買につきましては、高能力牛が多い地域であることから、優良血統牛および高能力牛のご案内が可能です。
	初妊牛	80~90	↓	
	経産牛	60~70	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	35~45	→	根釧管内における3月中旬までの生乳生産量の前年比は、釧路管内が月計100.6%・累計102.1%、中標津管内が月計100.0%・累計100.3%となっております。4月の初妊牛につきましては、6月~7月中旬分娩が中心となる見込みです。夏分娩牛の出回り開始に伴い、資源数の増加および都府県需要の落ち着きにより、価格は軟調に推移する見込みです。経産牛につきましては、4月に離農セール開催が予定されていることから出回り頭数の増加が見込まれ、価格は弱含みで推移する見込みです。育成牛につきましては、春生まれ牛への引き合いが強く、相場は堅調に推移する見込みです。
	初妊牛	70~80	↓	
	経産牛	50~60	↓	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	40~50	→	帯広管内における3月中旬までの生乳生産量の前年比は、月計99.4%・累計101.8%となっております。4月の初妊牛につきましては、6月中旬~7月分娩が中心となる見込みです。夏分娩牛が取引の中心となり始め、都府県需要が落ち着く時期となります。当管内においては、前月より弱含みで推移する見込みですが、例年と比較すると高値で推移する見込みです。腹別の資源状況につきましては、F1腹および雌雄選別腹ともに確保可能な状況です。和牛受精卵移植腹についても出回りがありますが、価格はF1腹との価格差が縮小傾向にあります。経産牛につきましては、道内を中心に引き続き需要が見込まれます。育成牛につきましては、春分娩が期待できる個体は引き続き高値で推移する見込みです。
	初妊牛	80~90	↓	
	経産牛	60~70	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	25~35	↓	道北管内における3月中旬までの生乳生産量の前年比は、稚内管内が月計102.0%・累計101.5%、北見管内が月計101.6%・累計101.3%となっております。4月の初妊牛につきましては、6月~7月中旬分娩が中心となる見込みです。春分娩牛の上場頭数減少に伴い、夏分娩牛への移行が進むことで資源の増加が見込まれ、相場は弱含みで推移する見込みです。育成牛につきましては、昨年の猛暑の影響により受精時期が集中したことから、今後資源の増加が見込まれ、相場はやや弱含みで推移する見込みです。経産牛につきましては、管内における離農の発生により資源が前年を上回る見込みであり、相場はやや弱含みで推移する見込みです。
	初妊牛	70~80	↓	
	経産牛	45~55	↓	
道内総括	育成牛(10-12月令)	35~45	↓	道内全体における3月中旬までの生乳生産量の前年比は、月計100.1%・累計101.1%となっております。4月の初妊牛につきましては、夏分娩腹中心の取引となることから引き合いは弱まる傾向にあり、資源の増加に伴い取引価格は弱含みで推移する見込みです。これまでの初妊牛および育成牛価格の高騰を背景に、販売者の交渉姿勢は強含みとなる傾向がありますが、個体の能力に応じた価格帯で取引される見込みです。搾乳用素牛資源は減少傾向にあるため、需要動向の変化により相場が大きく変動しやすい状況にあります。つきましては、安定的な導入計画の策定と早期のご注文をお願いいたします。
	初妊牛	75~90	↓	
	経産牛	50~60	→	

## 今月の表紙

今月の表紙は「第15回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「手繋ご」(長崎県 松谷茜氏 撮影)です。



## 編集後記

- 4月は新年度の始まりの月です。当会にも24名の新しい仲間が加わりました。今後の活躍を心より期待しています。春の穏やかな気候に励まされ、新たな挑戦へ踏み出す方も多い時期です。一歩ずつの積み重ねが確かな前進につながります。皆さまの歩みに寄り添う会報として、今年度も有意義な情報をお届けできるよう努めてまいります。どうぞご期待ください。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。  
shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

令和8年4月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 4月号 No.727

- 編集・発行人 飯島洋一
- 発行 全国酪農協同組合連合会  
〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館  
TEL 03-5931-8003 <https://www.zenrakuren.or.jp/>

今月の

らくのう

こどもギャラリー

入賞作品紹介



きょうものもうよ おいしい牛にゅう

中島村立吉子川小学校 2年（東北） 仁科壮翔

今月の入賞作品は…

中島村立吉子川小学校 2年（東北）の仁科壮翔さんの作品です。

様々な画材を駆使して表現力豊かに描いています。牛さんと周りの5人のお友達が画面いっぱいに元気よく描かれていて、躍動感のあるダイナミックな構図になりました。子どもたち一人ひとりを個性的に描き分けて、それぞれがこちらに向かって話しかけているように感じます。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第51回らくのうこどもギャラリー」で全国304点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議